

障がい者青年学級に関するアンケート調査【担当者】

日頃から障がい者青年学級事業にご協力いただきありがとうございます。今後の事業運営の参考にさせていただきますので、アンケートにご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

問1 この事業に参加したきっかけとその時期について<記述式>

1. 4年程前に〇〇さんの紹介で。以前に勤務していた会社で障がい者を採用していていっしょに同じ職場で働いたことがあったので。
2. 子供が好きだから
3. ポスターを見かけた。2年前
4. 社会の一員としての役割を求めて。約30年前より参加。
5. 子供が福祉の仕事に興味を持っているので、関連する事を何か勉強してみようと思いました。今年度で2年目となります。
6. 15年前、町内会のチラシ（回覧で）
7. ひかり学級で活動していた方からのお話が有り参加
8. 大学1年の7月に大学のボランティア部で募集を見たことがきっかけである。初めて参加して青年たち自身が学級を動かし、取り組んでいる姿に驚き、もっと一緒に活動したいと思った。
9. 1年半程度前に知り合いに紹介していただき興味を持ち参加しました。
10. 学生時代に資格過程の実習で一年間担当者として関わったこと。
11. 数年前に「広報」を見て参加しました。
12. 横で事業をしててしてみたかったからです。
13. 5年前ボランティアセンターで知り、何かのお役に立ちたいと思いました。
14. 2016年10月に異動で担当をすることになったから
15. 大学2年生、学内の広告を見て障がいのある方のボランティアをしてみたいと思った。
16. 2021年の秋、大学へ担当者募集に来てくださったことを機に知りました。
17. 市民大学HATS まちだの福祉で見学に参加（2021秋）その際、指筆談の存在を知ったこと
18. 人との交流も少なくひきこもりに近い状況だったため、社会的活動を広げていくために参加しました。（2005年～）
19. 1981年、大学院の先輩に紹介されて
20. 前職の知人から紹介されて参加しました。2021年11月8日
21. 2019年～。転職、次の職業として福祉関係（人を支える仕事）は自分に合っているのか知りたくて
22. 1986年大学の授業での紹介で。
23. 2019年大学の授業で紹介されて
24. 参加時期：2019年4月。きっかけ：学生時代障がい児の余暇活動に参加しており、当事者が成人になった時の居場所・生活に関心があった。当時は、自分の仕事にも余裕があり、何か新しいことを始めたかった。
25. 2022年度公民館学級開級式。学級生から「知的障がい者は、大声を出したり、動いたりする事は自分でコントロール出来ない」と言われ、障がい者を理解する事など「学び」が必要だと思ったから。
26. 数年前にビルの外で障がい者青年学級のポスターを見て、見学するつもりで来たら見学当日の日に申込み書など職員がもってきて記入してしまい、今に至ります。
27. 友人の紹介で見学に行き、顔見知りの学級生が居たり、その後月2回ならば続けられそうと現在に至っています。
28. 昨年6月 友人の紹介
29. 令和4年5月知人に誘われ見学に行きました。

30. センターでチラシを見て私もお役にたつ事が少しでもできればと思い応募しました。
 31. ポスターを見て・・・6年前

問2 2022年度における参加の頻度について

問2 学級活動日	人数
月2回ほぼ参加	24
月1回程度	3
可能な日のみ	2
可能な日のみ(年2回程度)	2
可能な日のみ(年5回程度)	1
合計	32

問2 担当者会議	人数
月4回ほぼ参加	11
可能な日のみ	2
可能な日のみ(月1回程度)	1
可能な日のみ(月2回程度)	1
可能な日のみ(月3回程度)	1
不参加	16
合計	32

問3 これからも続けて参加したいと考えていますか？

- 1 はい (いつ頃まで)
 2 いいえ (理由)

問3	人数
はい	31
いいえ	4
合計	35

「はい」の場合いつ頃まで<記述式>

1. 後1・2年(仕事の関係で活動を続けられない場合もあります)
2. 自身が続けたいと思っている間は参加したい
3. できる限り体調を整えて参加したい
4. 生きている限り、可能な限り
5. 可能な限り
6. 土曜学級は少なくとも今年度一杯
7. 身体が続く迄
8. 担当者体制が落ち着くまで
9. 結婚や出産をするまで
10. 大学卒業頃まで
11. できうる限り
12. 仕事・生活と両立できる限り
13. 体の許す限り
14. 体力が続く限り
15. 自分の居場所があるまで。参加できる時まで。自分の存在意義を感じられている時まで。生活環境が変わるまで。参加して楽しめているまで。参加しづらくなるまで。活動環境が変化し参加したくなくなるまで。

16. 生涯を通じて関わっていきたいと思う気持ちがある一方で、参加当時と私生活も変わり、難しいかなと思う気持ちもあり、揺れています。
17. 公民館学級 最長 2024年3月まで
土曜学級 体力が続く限り継続したい2035年?
18. 決めてない。他に何かあれば、可能な日のみになると思う。
19. 少なくとも後5年位
20. 今年度は継続したいと思いますが、来年度以降は未定。体力的な問題や介助の問題など変化がある可能性がある為。
21. 身体が続く間は
22. 元気なうちは
23. 未定・・・4件

「いいえ」の理由<記述式>

1. 年の為
2. 時間的・体力的な制約
3. ひかり学級は事情により不参加とします。

問4 活動に参加するためにご自身で行っている工夫があれば教えてください。<記述式>

(例：家事を早朝に済ませている・・・など)

1. 青年と接することにより多大な元気・勇気を青年からもらえている
2. 前日の夜のEVEVTは控える。
3. なるべく活動日に仕事や予定が入らないようにしている。
4. 会議の日は、家族に食事等の協力をしてもらっています。
5. 仕事の調整をする。
6. 日常生活の中で学級でコース活動で活かすことができそうな素材を探している。
7. アルバイトのシフトを早めにし、坦会参加可能にする。
8. 家事→ある程度片づけておく。
9. 活動の様子を機会をみて伝えるようにしている。
10. わかそよコンサートに誘うなど家族の理解を得るための試み。
11. 参加日は数か月前から家族に相談して日程調整をする。
12. 朝早いので学級はいつも朝食抜きです。
13. 活動参加を最優先にしています。
14. 活動日時以外に他のことを行う
15. 青年達の意見を聞く際には司会を青年にお願いしたりおひとりおひとりに伺うようにしている。
16. 学級日にはなるべく仕事や予定を入れないようにしています。
17. 活動日の前後に休養を入れる。
18. スケジュール調整
19. 月2回の活動は、なるべく他予定を入れない様にしている。
20. 体力回復の為に翌日有給休暇をとる
21. 流れができないと楽しめないので会議含めて参加していますがサボリサボリ参加するのが続けるコツかなと思います。
22. 自分自身に余裕が無いと実のある活動ができないと思っているので、あまり無理をせず、行ける時に参加しています。
23. 業務の調整をし、木曜日の出張、土日出勤を無くしている。
24. 早朝に清掃、洗濯など済ませています。夕食の準備もします。時間が足りない、あわてて公民館に向かっています。
25. なるべくバスには乗らず歩く様にしています。

- 26. 活動日当日は、疲れ切ってしまい夕食の仕度などに影響が出てしまうので、前日に買い物をすませる又は当日の調理は簡単にできるものにするなど工夫している。
- 27. 前日から身体を休め早く寝ています。
- 28. その日のため体調を整えています。
- 29. 青年達とスキンシップをとりながら1人1人に気にかけてる。
- 30. 特になし・・・4件

問5 事業に参加して、ご自身に良い影響があれば教えてください。<記述式>

- 1. 青年と接することにより多大な元気・勇気を青年からもらえている
- 2. 青年に教えてもらうことばかりです。
- 3. 市のCommunity活動に参加できていることは、地域活動に興味がある為勉強になっている。
- 4. 個性豊かな学級生たちと月2回、活動をとにもすることは掛け値なく楽しいし、自分自身の人生を振り返り、また世の中を見る目を養う機会ともなっている。
 担当者と学級生の区別をあまり意識しない点、一般の市民や学生が仕事や学業等と折り合いをつけながら参加している点などが学級の良いところだと思っている。
 半世紀あまり続いてきた柔軟な運営は、行政が全てを単独で行うのではうまくいかなかったかもしれないし、かといって市民による自主事業としてもここまで長くは続かなかったかもしれない。他では例を見ない絶妙な協力関係があるのだと思う。食費管理の問題もこの観点から糸口を見出せるとよいと思う。
 以上のように思いつつ、今後に向けての課題を考えてみた。→問7に記入
- 5. 障がい者福祉の勉強ができる事。 地域社会とのつながりを感じられる事。
- 6. 楽しめている。みなさんの思いを聞いて知らなかった事が学べる。
- 7. 障害のあるなしに関わらず、一緒に何かに取り組み、成し遂げることの楽しさを学ぶことができた。大学の講義だけでは学ぶことができない青年のみなさんの思いの強さ、個性に触れることができたことで視野が広がった。積極性が身についた。
- 8. 様々な方と担当者同士のコミュニケーション（初めの頃は右も左もわからなかったが）を取り、コミュカのアップや障がい者とともに寄り添う自然体になったこと。
- 9. 学級で久々にお会いする方々と話したり一緒に活動をする事で楽しさや懐しさを感じる機会、地域における居場所に参加できて、つながりを感じることができる。
- 10. 青年たちの歌っている姿、何かに取り組んでいる姿に時折感動します。ふだんの生活の中で感動することってあまりないので。
 - 11. たくさん、たくさん、私を豊かにしてくださいます。
 - 12. 青年たちはもとより、多くの担当者にとっても成長を実感し、生涯に渡ってかわりを持っていきたいと考えるようになりました。
 - 13. 障がいのある方への理解が深まった。
 - 14. 相手を知るということが楽しく感じるようになりました。「平等」「対等」の意味を深く理解できるきっかけになりました。
 - 15. 毎回新しい発見や学び、驚きがあり、人間として成長できているのではと思います。特に心の面での柔軟性や拡張を感じます。
 - 16. 人のつながりが広がり福祉関係の就職につながり仕事上の情報や人脈を得るきっかけになった。
 - 17. 知的障害当事者と深い人間的交流ができ、幅広い人間理解の土台を与えられてきたこと
 - 18. 当時者の方々の思いの内側にある葛藤や世の中の理不尽な不公平を言葉にしてもらう事で、例え僅かでも一緒に変化させる事が出来る一人になりたいと感じられたこと。
 - 19. 偏見が無くなった。人はどんな人でも意見を持っており、話し合うことができると知った。
 - 20. 参加している当事者と同じで仕事、家族以外の場が持てたことで体力的に厳しいがメンタルヘルスの面ではよい点があった。
 - 21. 福祉に関するする興味、関心が広がった。
 - 22. 人間の尊厳を再確認できたことでしょうか。行政職員として住民の良い生活とはどういうことか？考える契機になっています。福祉の関心も強まりました。
 - 23. 知的障がい者だけでなく、障がい者についての理解を深めた。インクルーシブな社会を目指したい気持ちが強まった。

24. 色んな人とコミュニケーションがとれる。青年達が話かけてきてくれて得意とする電車の話とか説明してくれて勉強になります。(自分に持っていない何かがある)
25. 学級生から元気もらっています。
26. 自分自身の成長 交流の楽しさ
27. 今迄知らなかった事を学級生にたくさん教わりました。知識欲が出て来ました。
28. 社会が広がり皆様の心の美しさに感動する事があります。
29. 学級に参加して若い方と会話ができ、視野がひろがる。
30. 特になし

問6 活動を行う上で大変だった点や苦労した点はありますか？〈記述式〉

(例：トイレ介助、外出活動など)

1. トイレ介助と、言葉が青年の一部の方と通じ合えないこと
2. 活動の主旨が理解できていないことが多い。Risk 管理の点で共通認識が低い。
3. COVID-19 感染症対策、青年学級が不要不急に該当するか否か その判断が各学級に委ねられた点。市内作業所、青年の活動場所と、センターの対策ギャップ。
4. 毎回のニュース作成が大変です。多動の青年の見守り。
5. 担当者が少なすぎる。外出ができない。少ない人数で外出して、何かあったらどうするのか？
6. 自身の体調が悪い時…トイレ介助
7. コミュニケーションの取り方で悩むことは多いけれど、それも青年学級の人と関わることの魅力だと思う。
8. 初めは右も左もわからなくて担当者同士、勿論、障がい者との接し方が苦労しました。障がい者との目視線に合わせることも難しかった。
9. トイレ介助などで車椅子から立ち上がらせる時など、こちらの体が壊れるのではないかと思うことがあります。
10. 全てが大変ですが、皆さんの笑顔が最高です。全て自身の勉強です。
11. 一緒に活動する担当者や職員との意識合わせは、実りある活動をするために大事なことだと思います。
12. 言葉を話すことが難しい青年達の意見を拾い、活動に取り入れること。
13. 担当者が不足していて、細かな対応ができないことが多いのが心配です。
14. 人間関係のトラブル、学級生や家族はともかく担当者会への参加が苦痛。嫌な思いをしても相談できる場所がなく我慢するか去るしかない。特に市職員や地域有力者の担当者に対しては苦慮することが多い。
15. スタッフ間での考えを合わせること
16. 参加当初は、どんなお手伝いをしたら良いのか正直わからず、まわりにいる担当者にお聞きするが具体的な応えが帰ってこなかった。担当者ご自身も模索されながら動かれていることがわかりました。
17. 1日中休みなく活動し気を配らなければならないところ？1人になる時間必要だと思った。
18. 当事者の置かれた状況や障がいの先にある普遍的な人間性をスタッフ間で共有することを模索しながら活動しています。
19. トイレ介助、食事介助、コミュニケーションのとり方等
20. 担当者会議の参加：重要性は分かりますが、1/w 平日夜は中々難しい。ニュース作成、指で読み取れる担当者が不在時の学級の回し方。
21. ①オリエンテーションがないボランティア活動なので、対応方法 (NG な行為他)、介助方法 (トイレ介助、車椅子の使い方含む) を知らずに活動を行っているので、学級生に申し訳無いと思っていること。

②尿瓶を使ったトイレ介助を行って、腰痛をわずらったこと。車椅子に座った状態で、体を前にスライドしチャックを開けて尿瓶を使用するが、用が終わった後、体を起こすのはコツが分からない者には、力任せて行うので重労働です。

- 2 2. グループ以外の青年達の事が知らない。どう話しかけたり対応したら良いか。
- 2 3. 車椅子の方の介助は2人で行う方が良いと思います。
- 2 4. 外出介助は特に気をつかう。学級生の安全を守るのは当然ですが街中の移動は状況に応じての配慮が必要
- 2 5. 1年が過ぎましたか？当日は緊張してつかれます。
- 2 6. 外出活動は体力的に疲れました。
- 2 7. あまりない
- 2 8. 特になし

問7 事業における改善すべき点や事業に対する思いがあれば教えてください。〈記述式〉

1. 職員が土曜学級・ひかり学級・公民館学級の担当者と接する時間・話し合いの時間をできるだけ多く持ち、お互いの意見を述べる・今後の活動に反映させる。
2. もう少し専門性の高いSTAFFが必要
(運営名と障がい理解、そしてボランティアスタッフのリーダーシップ育成)
3. 青年学級のあるべき姿を示していただきたい。
現状各担当者の価値観によって、様々であると認識している。
4. 【青年学級の意義】
 - (1) この半世紀、ご家族をはじめ関係者の努力により、平日の日中支援、グループホーム、ショートステイなどの仕組みが整備されてきたが、これらを利用することが困難なひとと依然として多数。また学級への送迎は主としてご家族が担っていて、この問題も未解決。
 - (2) 学級生にとって自宅と通所先のほかに第三の居場所としての生涯学習センターという公共空間があり、そこで仲間とともに過ごすことができることの意味は大きい。それ以外の場所はいかに障壁が高いかということでもある。
 - (3) この間の福祉サービスの拡充、障害者権利条約の批准等の社会情勢の変化を踏まえて、青年学級の意義を再確認し、次の半世紀をイメージする必要があるのでは？
- 【潜在的なニーズへの対応】
 - (1) 社会の成熟を背景に、障害の有無にかかわらず生涯学習に参加することへの関心の高まり。近年増加したグループホームにおいても休日の良質な余暇活動のニーズ。
 - (2) 2,3年で交代する担当者が多い一方で学級生の在籍の長期化、高齢化、多様化。現行の方式では受入れキャパシティに限界。
 - (3) こうした状況の中、事業実施の公的責任を明確にした上で、公民の連携のあり方、全市的な機会の均等、潜在的ニーズへの対応等を検討する必要があるのでは？
- 【支援の担い手側の課題】
 - (1) 担当者の確保の困難、専門家の不在、教育訓練の未実施。いわゆる”有償ボランティア”の位置づけの不明確。活動に伴う受傷や他人に損害を与えたときの賠償等の未対応。
 - (2) 会議への出席のない”当日担当者”が半数を超えたことによる活動への影響。会議に出席する担当者に負荷が集中しがち。
 - (3) これらを踏まえ、担当者の役割、位置付け、育成等を再考する必要があるのでは？
5. 担当者の数に見合った、青年数にしてほしいです。
6. 青年の方々は、学級を楽しんでおり学びの場で有ると考えます。思いは沢山有っても言えなかったりする社会の中で学級は発言できる場である。
7. 町田市青年学級のように青年のみなさんが主体となって活動している事業は中々ないものだと思う。それだけ町田の良い点、誇れるものだと思う。現状維持もしくはより成長したらいいなと思う。この青年学級に出会えて本当に良かったと思う。これからもよろしくお願いします。

8. 障がい者青年学級を知り、長い年月をかけて、様々なことを行なってきたことに対し、とても素晴らしい事業であると思い、私自身学び続けたいと思います。
9. 担当者会に出席できず色々に行えない（行わない）事が多い中で出席する事が申し訳ないのですが、可能な限り参加できればと思っています。体制的に厳しそうな日がわかれば事前に生涯学習センターからご連絡を頂けると調整しやすく大変ありがたいです。どの日に行くのがよさそうか全くわからず、担当者は活動の事で精一杯かと思っていますので、体制については職員の方からご連絡頂きたいです。お忙しいかと思いますがよろしくお願い致します。
OBOG で年1回～年数回ならでられるという人もいる様な気がします。センターから連絡をとって頂き、年間スケジュールに入れられれば多少の体制カバーにならないかと思っています。バイトのシフトの様に調整が大変とは思いますが…状況も知らず勝手なことを書きまして申し訳ありません。
10. 青年たちの開放感、やる気など前向きになれるようなゆるくて明るい雰囲気づくりをいつも心がけてください。
 11. もっと優しく！もっと愛を持って！そうすれば何をすべきか解ってくると思います。
 12. 自宅、職場、第3の居場所が青年学級。それは担当者も青年も同じだと思う。そんな大切な青年たちの仲間たちの居場所を大切にしていきたいし、大切にしたい。
 13. 継続して学び、成長できる場としてとても価値があると感じています。「一定期間参加して終わり」とは違う。生涯学習そのものとして続けていただきたいです。
 14. 福祉機関や特別支援学校との連携をセンター側にはとってもらいたい。学級生の親が自宅で養護不能となり、GH入居となっても施設側のやりとりが担当者対応となり、学級に通いつづけることが不可能になるケースが少なくないため。また、学級生募集が例年4月上旬なのも卒業後の障がい者の生活状況がはっきりしない時期で、夏ごろに施設外の活動として参加を希望しても入れないことがあるため。
 15. 知的障害者に対する社会教育のあり方、知的障害の理解などについて築き上げてきたものは、非常に深いものがあることを大切にしたい。
 16. もっと担当者の皆さんが当事者の方々の思いを理解出来るような訓練があると良いと感じています。
 17. 学生の参加者を増やすこと。高校生の参加者だって認めて増やしていくこと。担当者増員。福祉関係の学生、学校、企業に参加者募集の活動を行っていくこと。
 18. 学級を卒業した後の場を増やしたので新入生を必ず募集して行ってください。
 19. 障がいのある方たちにとって青年学級という場があること、そこに参加することができることは幸せなことだと思う。これからも学級生達と一緒に楽しい時間を過ごしたいです。
 20. 担当者の積極的な参加がなければ成立しない活動だと思います。現状、力になれず申し訳ありません。社会人、特に家庭があると気持ちはあっても精神的に取り組むのは困難だと思います。縮小はやむを得ないのかなと思いますが、かけがえのない場なのでどうにか残してほしい。残さなければとも思います。いつもご迷惑おかけしてすみません。
 21. ①初心者マークを付けている担当者に対するオリエンテーション、OJTが必要です。
②公民館の担当者会議は、議題の進行が出来る（議題と関係ない発言を止められる）担当者が行う必要がある。会議は1時間を目標にMAX90分で終わらせる。だったら、好き勝手な話をする混在の会議を改善しないと参加者がますます減り、私もモチベーション「ゼロ」で参加しているので、不参加になるのは時間の問題です。土曜学級を見習ったらどうでしょうか？内容が充実していて短時間です。
③担当者会議の出欠が事前に分かる必要があると思います。
④学級生が固定化されている印象があり、町田市の障がい者数からするとほんの一握り、税金を利用して活動にしては、不公平を感じています。ローテーションや卒業を考えるべきです。

⑤担当者不足によって、合同で活動を行ったりして、学級生の本人活動が出来ない事が複数回ありました。今後担当者が増えるとは考えられないので、事業自体を外部に委託し、そこに現在の担当者が臨時職員として採用される様な手を打つ必要があると感じます。

22. 担当者が減ってしまっている。新しい担当者ができるだけ長く続けもらえるような工夫。もちろんサポートしますが、青年達が活動しやすいように、これからも青年学級の事業を続けてほしい。青年学級と他事業の区別が分かるようにしてほしい。あと報酬いただいてますがどう計算されているのかいつ口座に入っているのかよく分かりません。

23. 特になし